

渡辺復興大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録  
(平成31年1月22日(火) 16:16~16:20 於)仙台市)

1. 発言要旨

本日、仙台市内において、岩手、宮城、福島三県の連携復興センターと意見交換、有限会社東北工芸製作所の視察、あすと長町第二市営住宅にてNPO法人つながりデザインセンター・あすと長町と意見交換及び住民の皆さん方と懇談を行いました。

三県の連携復興センターとの意見交換では、中間支援団体の重要性、三県のNPOの特色、課題、NPO活動が多岐にわたっていることについて実感をいたしました。

有限会社東北工芸製作所では、地元の伝統的な工芸品である玉虫塗を販売している店舗を視察し、創意工夫を凝らしている商品の輸出が大幅に伸びていることに感心をいたしました。

あすと長町第二市営住宅では、支援団体の活動や住民の方々の生活の様子を伺い、改めてコミュニティー形成の重要性や、そのために御苦勞をしたことについて実感をしたところでございます。

引き続き現場主義に徹しまして、被災者に寄り添いながら、被災地の復興に全力で取り組んでまいりたいと存じます。

2. 質疑応答

(問) 先程、住民の方との懇談の中で、コミュニティー形成や高齢化の問題が挙げられていたと思いますけれども、国として引き続きどういうふうな支援をしていきたいと考えていらっしゃいますか。

(答) コミュニティーの重要性というのは私も認識をしております。一朝一夕には難しいなというふうに実感しておりますので、この点についてはですね、更に検討を進めてまいりたいというふうに思います。

(問) 生業(なりわい)の再生ということももう一つのテーマに挙げられて今回視察になられたと思います。海外に向けての色々な商品開発など、意欲的に取り組まれている会社さんだと思うのですが、ほかの企業はどのような取組をしていったらいいのかというような考え、思いというのはございますか。

(答) 今日は、東北工芸製作所を拝見させていただきました。日本伝統的なものでありますけれども、漆というものが、例えばガラスなどの新しい素材に塗ったりできる。これはすばらしい技術ですが、そのほかにも、被災地の県においては様々な伝統文化や伝産品があるというふうに思っておりますので、こういったものについては、支援をしていきたいというふうに私は考えておりますが、挙げてもらうことが必要になっておりますので、地域と連携しな

がら取り組んでまいりたいというふうに思います。

(以 上)